

公立高等学校における 「政治的中立性」担保の方策と、 教員の研修の在り方について



令和2年(2020年)12月23日

北海道高等学校政治経済研究会 会長

川瀬 雅之(札幌市立北翔養護学校校長)

1. 「政治的中立性」をめぐる状況と関連の「提言」
～ 「学び」の主体として、
学習者である生徒の力量形成と「授業改善」～
2. 「主権者教育」の活性化に向けた「授業改善」の
ポイントと具体的な実践事例
～ 政治的中立性担保の観点を中心に ～
3. 教員の指導力向上に向けた実践交流
～ 良質な教材と指導案をベースとした研修の充実～

1. 「政治的中立性」をめぐる状況と関連の「提言」
～ 「学び」の主体として、
学習者である生徒の力量形成と「授業改善」～

主権者教育(政治的教養の教育)実施状況調査より(文部科学省調査)

－調査の概要－

(1)調査対象

(1～2について)

・国公立高等学校等(特別支援学校高等部、中等教育学校含む)1,587課程を対象とした抽出調査(任意回答)

【有効回答数1,299課程(有効回答率81.9%)】

(3について)

・全都道府県・指定都市教育委員会

(2)調査項目

(1～2について)

・学校における主権者教育(政治的教養の教育)の実施状況

(3について)

・教育委員会による高等学校等への支援状況

(3)実施時期

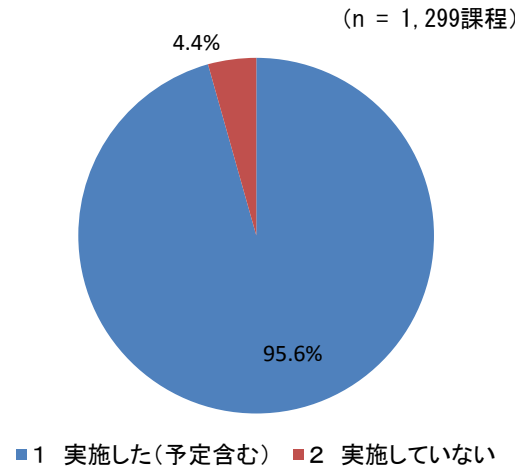
令和元年12月～令和2年1月

(4)実施方法

・民間企業に委託してオンライン調査として実施

1. 令和元年度第3学年生徒の状況について

令和元年度に第3学年に在籍する生徒の主権者教育の実施状況(全体)



○ 主権者教育の実施状況はおおむね良好

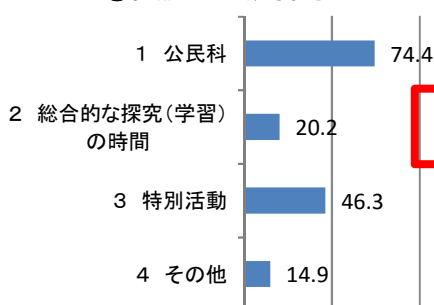
● 現実の政治的事象についての話し合い活動は3割強にとどまる

→ 政治的中立性を過度に意識し実施を控える傾向があるのではないか

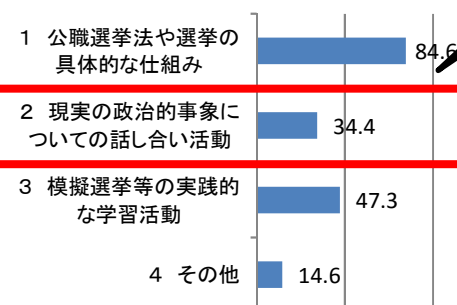
<取組の内容について(予定含む)>

※「実施した」と回答した課程における割合。いずれも複数回答可。(単位：%)

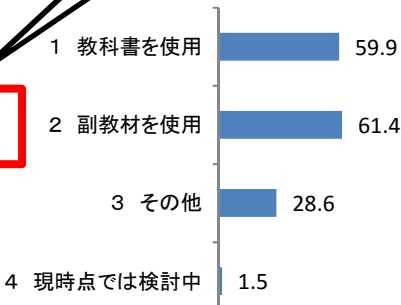
①実施した教科等



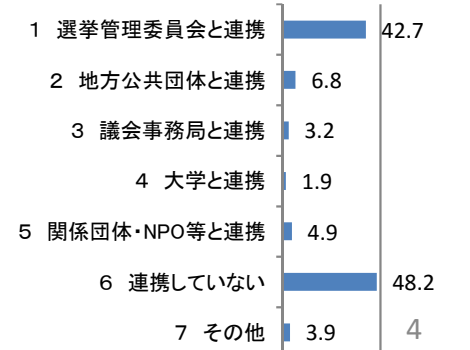
②具体的な指導内容



③教材の使用状況



④指導に当たっての連携状況



「高等学校新設科目「公共」に向けて～政治学からの提言」
(日本学術会議政治学委員会(2017年2月3日))

教師の影響力によって、特定の政治的立場を注入することは問題であるが、逆に「中立性」を「非政治性」に矮小化してしまうことは、生徒の政治的な「思考力、判断力、表現力」(学校教育法第30条第2項)の育成といった点からみて、百害あって一利なしである。判断力の芽を摘み取り、態度表明を自制する空気をつくってはならない。

そこで教える側にとって重要なことは、教授内容を十分に研究・準備し、扱う問題に関する認識の確かさ(真実性)、情報源・方法の確実性(クレディビリティ)・信頼性(リライアビリティ)、専門性を高め、リアルな社会的・政治的問題に関する多様な立場や視点から教材・情報を集め、生徒たちに提供することである。

「高等学校新設科目「公共」に向けて～政治学からの提言」
(日本学術会議政治学委員会(2017年 2月3日))

教師は、賛否が分かれるテーマでは、個々の生徒を自身とは異なる意見にさらし、「公的争点分析アプローチ」がいう価値のジレンマ状況、個別事例と一般的原則の関係を意識させた上で、生徒個人個人の可塑的な意見の形成をリードしつつ、生徒自らが自身の立場を離れた上でその意見の理由づけをすることを促す。

こうした作業こそが、教師あるいは教授内容に「政治的中立性」を担保させ、生徒が先入観から解かれ、対象と「距離」をとりつつ、自由に自分なりの意見や判断を持つことの意義を理解させることにつながるであろう。



主権者教育活性化の鍵は、
「学び」の主体である生徒の
力量形成と授業改善。

2. 「主権者教育」の活性化に向けた「授業改善」の
ポイントと具体的な実践事例
～ 政治的中立性担保の観点を中心に ～

「学び」の主体として、 生徒に身に付けさせたい力(力量)

- ① 質問し、課題や論点を整理できる力
- ② 議論を深め、世論(合意)を形成できる力
- ③ 方策を工夫し、課題解決に向けて行動できる力
- ④ 他者に共感し、協働できる力

「主権者教育」の活性化に向けた「授業改善」のポイント

※赤字

特に政治的中立性を担保しつつ、生徒に多面的・多角的に考察させるポイント

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>①質問し、課題や論点を整理できる力</p> | <ul style="list-style-type: none">・「ディベート」を取り入れた授業実践が典型。・「質問力」の育成に力点を置きグループ学習でも発表後に「質疑応答」の活動を設ける。・授業の発表場面においても対面・対話形式の質疑応答を基本とする「ポスターセッション」を取り入れる。・複数の新聞記事等を読み比べ、同一の社会的事象に対する「切り込み口」の違いを比較分析させる。 |
| <p>②議論を深め、世論(合意)を形成できる力</p> | <ul style="list-style-type: none">・意図的に「立場を変える」というプロセスを学習過程の中に取り入れる。・二項対立に限定せず、2つの対立軸を組み合わせた「マトリックス」を示して、主張する意見等の「ポジション(立ち位置)」を意識的に検証させ、物事を俯瞰する力も養う。・ワークシート等に「トゥールミン方式」などの論理形式を取り入れ、根拠や理由を明確にしながら議論を進める方法を学ばせる。・「オープンエンド」の「命題」を与え、個人、グループ、クラス全体という風に学習集団を変化させながら、主張や意見の交換をさせ、他者の考えに対して論理的に批判する力を育成する。・各種の「思考実験」の追試を取り入れる |

「主権者教育」の活性化に向けた「授業改善」のポイント

先入観から解かれ、対象と「距離」をとりつつ、自由に自分なりの意見や判断を持つことの意義を理解させるポイント

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>③方策を工夫し、課題解決に向けて行動できる力</p> | <ul style="list-style-type: none">・ 経済教育の実践例として広く紹介されている「貿易ゲーム」など、「ゲーミング」(社会的事象などを抽象化したゲームを通じて、問題発見・問題解決を見出すという教授法、合意形成法)の教材を取り入れる。・ 「課題研究」に取り組み、仮説・検証を経て成果の明示や提言までに至る「卒業論文」の作成や発表・報告を行う。行動できる力の視点からは、表現力の育成に重点を置く。・ 新聞の投書欄等への投稿や論文等の募集企画への参加。学校外の企画や活動への参加を意図的に盛り込み、生徒自らの考えを整理し、行動する上での責任感も育成する。 |
| <p>④他者に共感し、協働できる力</p> | <ul style="list-style-type: none">・ 議論や意見交換の場において、他者の意見を否定しないことを前提とする「ブレインストーミング」の手法を適宜取り入れる。・ 言語活動の一環として「ビブリオバトル」のようなブックレポートを取り入れる。・ 国際交流などの機会を積極的に利用し、文化や価値観の違いに気づきながらも、同じ世代としての共感や相互理解に向けたプロセスを体験させる。 |

実際の実践事例

「授業改善」のポイント

「覚える」から 「考える」へ

具体的な「学習課題(主題)」を設定 → 「ねらい」

Teaching

→

Learning

教える

学ぶ

知識伝達を

深く考える力の育成を

主軸とした教育

めざした教育

「学習」

「探究」(「学び」)

↓

多面的・多角的な考察、構想や深い理解

「ニュースレポート」を作成。「争点」から「解決策(政策)」を構想
 「現実社会の諸課題」についての興味関心、批判的な思考力・
 判断力、自らの考えを表現し、異なる意見を捉えながら、合意
 形成に向かう力を育成する。

- ① 新聞記事を通して、現実社会を俯瞰し、生徒が興味関心を持った
 社会的事象についての新聞記事を整理し、「争点」の形に仕上げる。
 「事実」と「主張・意見」を区別しながら、「課題」の原因や背景を探り、「基礎的な情報(5W1H)」
 を抽出。「争点」について、解決に向けた政策提言を盛り込んだ「ニュースレポート」の作成。



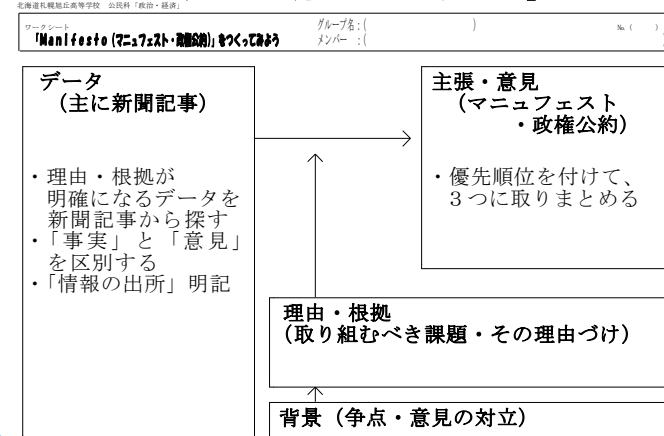
- ② 「争点」から「解決策(政策)」を構想 (個人→集団・グループ)
 「争点」から「解決策(政策)」に整理する方法の指示として、いつまでに、どのような組織を使い、どれだけの予算をかけて、
 具体的に何をするのか、関連する新聞記事も情報源として、具体的にその社会的事象を選択した「理由・根拠」を書き添えて添付。

- ③ 個人から集団へ、対話を通じた合意(「公約」)形成
 生徒を国会議員、グループを政党に見立て、「政策提言ワークシート」に
 もとづく協働作業を行い、持ち寄った複数の「政策」を選挙の「公約」として
 3つに取りまとめる。

- ④ 全体発表、質疑応答、そして「投票」
 グループでまとめた「公約」を、教室の前面に一堂に掲示し、全体の前で
 選挙運動風の発表を行い、「公約」についての説明と質疑応答を経て、最も
 支持するグループを選択する、一人一票の「投票」を行う。「投票」方法は、
 ポストイットを投票用紙として一人1枚ずつ配布。支持する「公約」の上に添付。

「投票」結果は一目瞭然の情景となり、生徒間の相互評価として、その場ですぐに共有される。

トールミン方式の「ワークシート」



「2つの対立軸」ばかりでなく、「3つの対立軸」での考察も 対立軸を組み合わせた「マトリックス」を示して、主張する意見等の 「ポジション(立ち位置)」を意識的に検証

2つの対立軸の例

政府主導か自助努力 × 世代間の公平 ※ 大小で分析すると、3つの対立軸にもなる

「少子高齢社会と社会保障」という課題を探究していく過程においては、政府主導による福祉の考え方と国民の自助努力による福祉の在り方を対照させ、真に豊かな福祉社会を実現するためにはどうしたらよいか、ということ世代間の公平など「持続可能な社会」という観点から探究をさせたい。

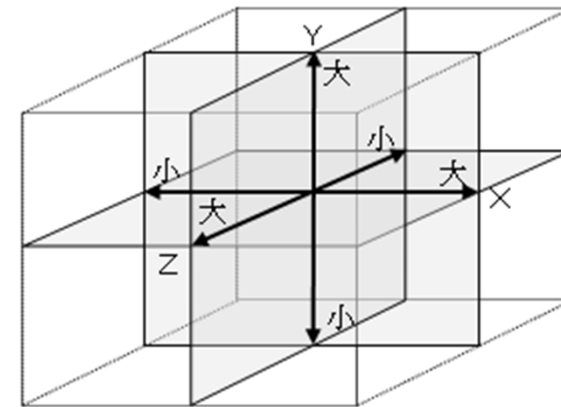
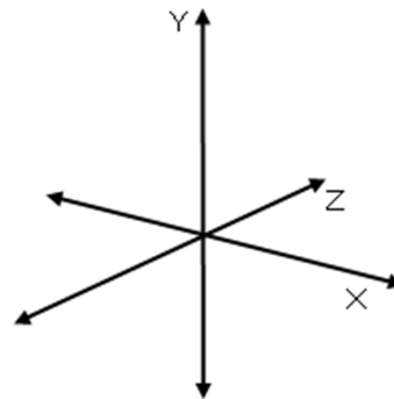
3つの対立軸の例

輸入自由化か食料自給率 × 都市部の消費者と農村部の生産者 × 国土保全・食糧安全保障

「農産物の輸入自由化」と「食料自給率の向上」のそれぞれの立場にたつて、いまの日本の農業が抱える課題を考えさせる。自由貿易協定などにより、関税が大幅に引き下げられ、都市部の消費者にとっては、安価な農産物が供給される。生産者の立場からは、日本の農地面積は外国に比べて極端に狭く、農地の大規模化や効率化にともなう農産物の価格競争力の向上には限界がある。また、食糧安全保障の観点や農業の多面的機能を重視した農村の維持の課題もある。

対立軸の設定方法

対立したり、対比するような「概念」や「事象」を、対立軸として組み合わせたり、ある「事象」について「大」「小」など、程度や比較を組み合わせる。学習内容に応じて、工夫し、「ポジション(立ち位置)」分析を行う。さらに、発展的にその「変化(シフト)」なども考察・構想させる。



地域の関係機関との連携・協働

「ふるさと高校生議会」

・ねらい

わが町に対する認識を深めさせ、誇りを持たせるために、**本物の議場に出向き**、建設的にものごとを考えさせるとともに、公の場で発言することにより、自己表現力を身につけさせる。
「条例」の役割を理解し、地方分権に対する住民の主体的な関わりについて考察するとともに、議会運営や町政について関心を持ち、住民自治について理解させる。

・指導方法の工夫

「カリキュラム・マネジメント」の成果の一つである。
町の全面的な理解と協力の下、**事前・事後指導も行いながら、実際の議場に出向いて質問し、町長による答弁も実際に行っている**。議会の仕組みや町行政改革計画、予算のあらましなどについて、**議会広報や担当課長による講話も行われ、現実社会の諸課題をそのまま取り上げるリアルな実践**である。

・評価と発展

擬似的な体験ではあるが、**仮想の設定に比べ、圧倒的にリアルな体験を実現した授業実践**である。
下調べをしながら**質問内容を吟味し、答弁書を読み解く中で、生徒の考える力、表現する力が身に付いた**。

3. 教員の指導力向上に向けた実践交流 ～良質な教材と指導案をベースとした研修の充実～

北海道高等学校政治経済研究会の取組

- 「主権者教育実践事例集」の作成（2017）
- 研究大会、学習会、講演会の開催
- 研究紀要、会報、「実践事例集」の発行
- 問題集、用語集等の出版
- 調査研究（アンケート調査）の実施



〔主権者教育〕について ※ 「公共」に関する調査結果から

- 主権者として社会を批判的に見る力、課題解決のための客観的・論理的な思考力、民主社会に生きる人間としての在り方、等を深め養える授業の構築に試行錯誤していきたい。
- 主権者教育の継続、人間の尊厳と平等の観点は重視していきたい。
- 昨年度より、3年生現代社会で「町政への提言」を実施しています。地域課題について考察し、町長以下幹部職員を前に発表することを行っているため、主権者教育の兼ね合いからも継続していきたいと思っています。
- 租税教室や模擬選挙など、外部との交流を引き続き継続したい。
- 主権者としての自覚や役割を学び、その学びが社会の一員として、活かされるような視点に立つての指導



教員の研修の在り方

～多様な研修の場で活用可能な良質な教材と指導資料の開発・共有～

「授業改善」に向けた「実践・情報交流(OJT)」が重要

- 「教育は人なり」→「自ら学ぶ生徒」の傍らには「自ら学ぶ教師」
- 「理論と実践の往還(統合)」
- 「実践事例」の交流 ※研究会活動の役割、指導案集等作成

「教材開発・授業改善」には「繰り返し(更新、改善、改訂)」が必要

- 「教育現場」と国・各教育委員会、各種研究会等の連携・協働
- 「作成し、使用し、工夫し、さらに改良」この「繰り返し」が大切

「教育的ニーズ」に応じた良質な教材と指導資料の開発・共有

- 国による児童生徒向けの副教材や教師向けの指導資料の開発
- 各教育委員会等が作成している資料の共有化
- 各種研究会やNPO等との連携による教材の開発・活用・広報

ご静聴ありがとうございました。

「教訓」の一つとして 「主権者教育」の使命

「シティズンシップ教育」の先進国

イギリスの実態として、ある意味で、意外であった・・・

英BBC「リアリティー・チェック」編集委員 クリス・モリス氏へのインタビュー記事
(読売新聞 2019.5.22)

『EU』 → 「政治的に微妙な問題」、「教えにくいテーマ」

「現実社会の諸課題」の扱い → 「リアルな政治との対話」が大切

「ボイテルスバッハ・コンセンサス」 → 1976 ドイツで成立

- ① 教員は生徒に期待される見解をもって圧倒し、生徒が自らの判断を獲得するのを妨げてはならない。
- ② 学問と政治の世界において議論があることは、授業においても議論があることとして扱わなければならない。
- ③ 生徒が自らの関心・利害に基づいて効果的に政治に参加できるよう、必要な能力の獲得が促されなければならない。

主権者教育にかかわる講演会

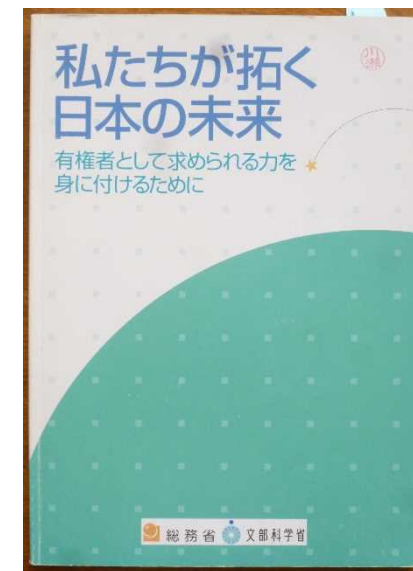
演題 「複眼で日本と世界を考える」

講師 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
東アジアメディア研究センター 教授 藤野 彰 氏

具体的な事例を交えた講演を聴き「政治的な教養の基礎」
「政治に参加するために必要な力」を育む。

感想

- ・一つの社会問題もいろいろな方面から捉えて、考えることが大切。
- ・メディアの情報と実際の情勢のズレを見極める目が必要。
- ・自分とは違う考えや文化を、頭から否定せずに違いを理解していくことが大切。
- ・しっかりと自分の考えを主張していくことが、国際社会では求められている。
- ・何でもよいので、一つ外国語を日常的に話せるようになりたい。 など



「考える力」を育成する

「授業づくり」で留意点すべき点

「評価」の工夫に留意して「授業づくり」に取り組む

なぜならば

「考える」ために必要な力



「メタ認知」

自分の理解状態を、自己診断できる力

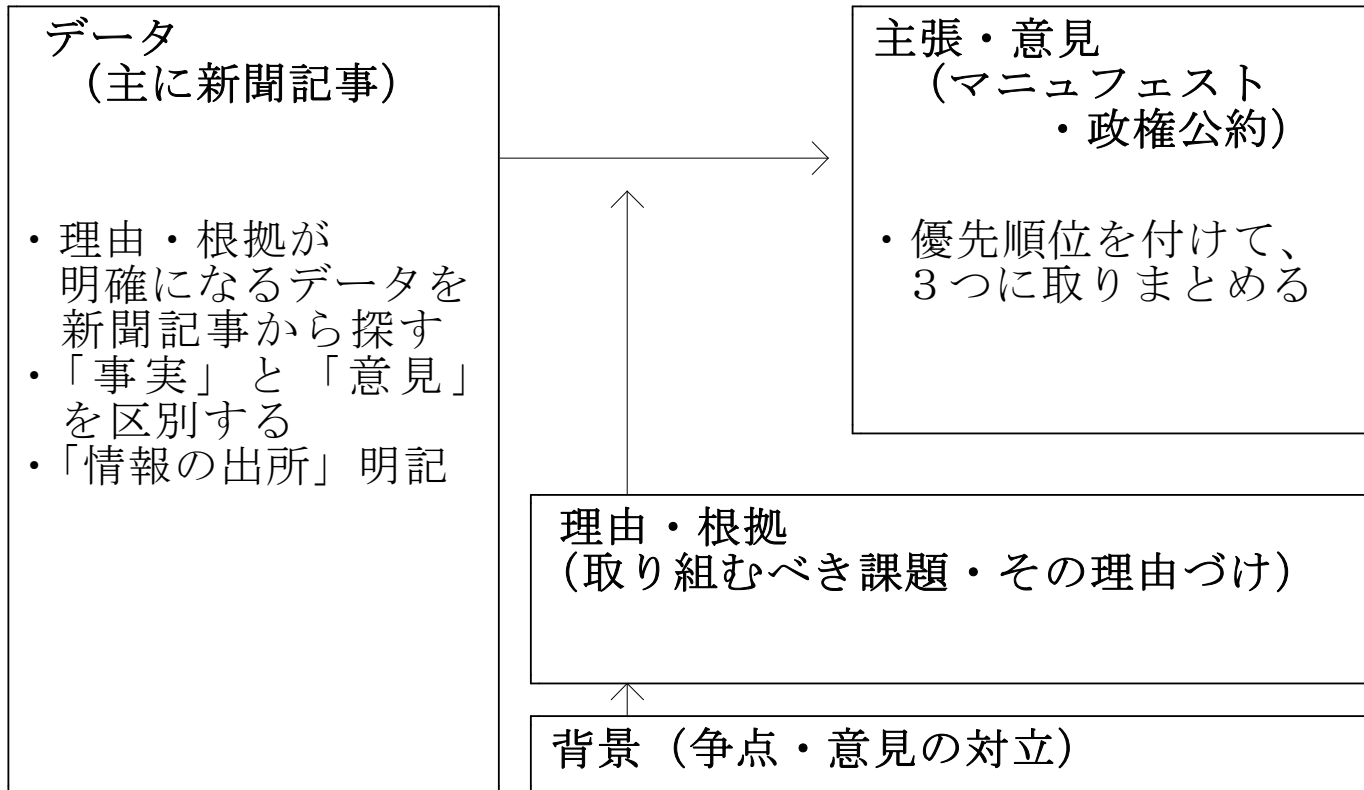
「自ら～する」、「見通し」、「振り返り」、「指導と評価の一体化」

「自己更新」(奈須正裕氏) などが強調されている

トウールミン方式の「ワークシート」

北海道札幌旭丘高等学校 公民科「政治・経済」

| | | |
|---|-----------------------|---------|
| ワークシート 「Manifesto (マニフェスト・政権公約)」をつくってみよう | グループ名:() メンバー:() | No. () |
|---|-----------------------|---------|



地域の関係機関との連携・協働

「地方自治と住民福祉」

・ねらい

地方自治と住民福祉について、「条例案」の立案を通して、リアルに理解させる。

・指導方法の工夫

「地方自治は民主主義の学校」を「地方自治の本旨」とともに理解させた上で、直接請求権と住民投票について、リアルに生かせる(活用できる)ほどに理解させる。

居住する市町村の財政等に関する具体的な資料を読み解き、課題の抽出と解決策を構想し、「条例案」の形にまとめさせる。その際、近隣の市町村とも比較しながら、実際の条例を思考モデルとして参照させ、現実社会の諸課題に沿った、リアルな「条例案」を提案させる。まとめとして、個別学習からペア学習に進行し、各自が構想した「条例案」について、意見交換を行う。

・評価と発展

自らが居住している地域社会の課題に関して、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取って考察、構想し、解決策を「条例案」にまとめる。

「条例案」立案にいたる過程での取組みを評価する。

「3分間スピーチ」 相互評価 × 短時間の継続的な取組 自分の考えや意見を表明する力、他者の考えや意見を聞く力の育成

要 領

スピーチテーマ：「現代社会の〇〇〇化について」

- ① 現代社会を特徴づけると考える「〇〇〇化」の〇〇〇に入る現象(変化)を一つ選択する。
- ② ①で選択した現象(変化)を選んだ理由・根拠をスピーチの中でまず明確にする。
- ③ 「〇〇〇化」に対応するために、社会全体としてどのような取り組みが必要か考えを述べる。
- ④ 自らの課題として、「〇〇〇化」に対応して、どのような力を身につけ取り組みたいか述べる。
- ⑤ 3分間スピーチ全体を通して、クラスの皆へ何らかのメッセージを伝える。内容は自由。
- ⑥ 2分30秒から3分以内にスピーチをまとめる。目安は、400字詰原稿用紙3枚程度の台本。

取り組みの流れ

- ① 各自のスピーチテーマの決定する。
- ② レジュメの作成・・・A4の用紙1枚に記入し提出する。
↑
スピーチの項目を箇条書きに示したり、関連する図表やイラスト等を描く。
- ③ 発表準備・・・発表用の台本を各自準備する。この台本については発表者の手元に準備。
- ④ 授業の冒頭に、1時間に5人ずつスピーチする。(授業の進度により、2名程度が良い)
- ⑤ 発表を聞いての「感想」を用紙に記入し、発表者に直接手渡す。・・・相互の励ましとする。

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 「3分間スピーチを聞いて」 視聴者：氏名 () | |
| テーマ： 現代社会の () 化について | |
| 発表者： | 発表日： 月 日 () 校時 |
| テーマについてのコメント：(テーマ設定の理由・根拠についても含めて) | |
| スピーチの組み立て(構成)についてのコメント： | |
| スピーチ全体を通しての感想：(発表者への激励も込めて) | |

成果と課題

「継続は力なり」の言葉がある通り、毎時間の積み重ねによる学習効果は大きい。
自ら課題を設定して発表するとともに、他者の発表を聞き取り、興味関心を知り、共鳴し、共感しながら、学習成果が共有され、相互に評価しあう場を持つことは、
学びの意欲を高める点においても有効である。